

鯖江市の環境政策への学生の提言

昨年の今までにない猛暑の夏、集中豪雨による洪水被害や四季豊かな日本の気候が無くなるような以前とはまるで異なる近年の状況は地球規模の気候変動によるものと言われています。

このような危機に対して、脱炭素社会、循環社会を目指し住み続けられる鯖江市のために、ごみの減量化や再生可能エネルギーなどによる脱炭素やSDGs活動など色々なことに取り組んできています。

鯖江市ではさらに脱炭素社会を目指すために昨年10月より脱炭素など環境を担う人材育成プロジェクトであるGIA（グリーンイノベーターアカデミー）に参加している学生を鯖江市で受け入れて二つのグループに分かれて活動しました。

『市民主体の環境政策へ』チームと『資源循環がオープンな街を目指して』チームの2チームです。

12月に東京で行われた発表会では2チームが共に全国1位に選ばれました。

また、2月末には、市長・各部長を前に2つのテーマについて、鯖江でのリサーチを基に政策提言を行いました。提言の内容については次号にて紹介させていただきます。



サケの稚魚育成・放流会中止について



毎年12月にサケの卵のふ化観察と稚魚の放流会を実施してまいりました。しかし、新聞やニュースでも話題になりましたが、海水の温度上昇によりサケの遡上が激減しサケの卵が入手できませんでしたので稚魚の育成も放流会も中止とさせていただきました。

地球温暖化が影響しているともいわれています。地球の為、持続可能な社会の為、今一度私たちにできることを考えてみましょう。

エコネットさばえ通信☆あとがき

【編集後記】

家族団らんの元日に発生した能登半島地震の映像を見て自然の力のすごさと災害の悲惨さに驚かされました。今回の地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。編集委員：エコプラザさばえ広報部

鯖江市環境教育支援センター
エコネットさばえ
 Sabae Environmental Learning Support Center
(認定NPO)
 指定管理者：特定非営利活動法人**エコプラザさばえ**
 エコネットさばえ通信 No.42 2024.3

〒916-0033 鯖江市中野町第73号11番地
 (中河小学校北西側)
 ☎(0778) 52-0050
 ☎(0778) 52-0909
 ✉econet@ecoplaza-sabae.jp
 🌐http://ecoplaza-sabae.jp/econet/



環境保全を担う人づくり 鯖江の未来を探しに行こう! 2024

エコネットさばえ通信 No.42





絶滅したコウノトリが、ついに鯖江でヒナの誕生

コウノトリは鯖江市周辺では、1970年に武生（越前市）にすんでいたのを最後に見られなくなり、野生では絶滅となっていました。その後、人工増殖に成功し現在は全国で300羽が野生化するまで回復しました。

鯖江には2010年頃から再び飛来が確認されるようになり、昨年2022年には人工巣塔の上で産卵しヒナが誕生しました。鯖江の地での誕生はとても喜ばしいことです。



写真提供：日本野鳥の会福井県 酒井敬治氏



農薬と乾田化（田んぼの造り変え）

1960年頃から農薬や化学肥料の使用により米の生産量は飛躍的に拡大し、みんながお腹いっぱいご飯を食べられるようになりました。また除草剤により、田んぼの草取りの苦勞がなくなりました。あわせて土地改良事業による乾田化により、トラクター等の機械で農作業が出来るようになりました。乾田は1m以上もある深い排水路を掘って造られていて、乾かすことができる田んぼです。大豆畑や麦畑にも変えられ、また再び田んぼに戻すこともできます。そして米もたくさん獲れる大変優れた農地なのです。



絶滅への道

これまでの田んぼは湿田と言って湿地の役割を果たしてきていました。ところがこの乾田化で広大な湿地を失うこととなり、メダカやドジョウ、カエル等の生息地を破壊し多くの生き物を絶滅危惧種へと追いやったのです。

農薬で水辺（湿田）の生き物は汚染され、それを食べたコウノトリが中毒死したり、また乾田化によりエサがなくなり飢え死にしていきました。さらに松の木が無くなり繁殖が出来なくなり、そうしてコウノトリは絶滅していきました。



共生への課題

コウノトリは肉食で、一日に一羽が約500gの魚やカエル等のエサを食べます。人間が食べる量に換算すると概ねステーキ約3枚分くらいです。すごい大食漢です。この多くのエサの確保には、田んぼを湿地化して小動物たちを増やし、減農薬や有機肥料の使用、さらにはこまめな草刈と言った大変な作業が必要となります。

例えばコウノトリ米のように高く売れて、農家が米づくりだけで暮らしていければ良いのですが、そのためには大変な作業が伴います。

また、人工巣塔はあくまで代用策であり、松林の再生が必要です。

コウノトリとの共生へ道は簡単ではありません。



コウノトリを頂点とする「生態系ピラミッド」

持続可能な社会の実現を目指して

私たち人間が、これまで良かれと思って求めてきた豊かな暮らしは、声を上げずに絶滅していった多くの野生生物の犠牲の上に成り立っています。環境問題は野生生物の絶滅そして生態系サービス低下につながり、最後は人間の住めない地球へとなっていきます。

『Think globally Act locally』これは地球規模で考えて地域で行動するという意味です。

環境問題のような大きな問題に対しては、まず自分の身近なところから行動を始めることが大切です。そして地球・未来・人を思う気持ちで、小さくても良いので活動を続けていきましょう。

